

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	生活支援・介護予防の体制整備事業	コード	2212
-------	------------------	-----	------

2 担当部課	部等 健康福祉部	課等 介護福祉課	作成者 保科 真由美
--------	----------	----------	------------

3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち		
		政 策	福祉の推進	施 策	高齢者福祉の推進
		予算科目	生活支援・介護予防の体制整備事業費	業務委託	全部委託
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり
		根拠法令	介護保険法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	<p>独居、高齢者のみ世帯、認知症高齢者が増加する中、医療・介護のサービス提供のみならず、NPO法人、民間企業、ボランティア、社協、地縁組織、老人クラブ、商工会、民生児童委員等の生活支援を担う関係機関との連携を図りながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に行う。</p>		
目的	対象者	高齢者	
	意 図	多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進	

5 事業の実施内容	*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
	<p>高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることを支援していく体制を整備するために、岡谷市社会福祉協議会に委託し、助け合い・支え合いのある地域づくりの理念を共有するための情報発信と啓発、地域における生活支援サービスの把握に取り組んだ。また、活動の中から、生活支援体制について区の中で協議したいという意向を確認し、三沢区において、学習会や協議を行った。（第2層協議体の位置づけにて実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に出向いての活動 <ul style="list-style-type: none"> ・区、地域活動団体等への情報提供、出前講座、意見交換等：9回 ・地区社会福祉協議会への情報提供、出前講座、意見交換等：11回 ・地域の資源や取り組みの情報収集：5回 ○活動報告会：1回 ○研修会等への参加：7回 ○関係機関との会議：29回 ○地域サポートセンター単位の会議（第2層協議体）：3回（三沢区） ○地域福祉ネットワーク会議（第1層協議体）：0回※コロナウイルスの影響により中止 		
前年度の課題への対応	<p>・第2層協議体として位置付けた各区の地域サポートセンターにて学習会を行い、地域の課題抽出、支え合いの仕組み作りにつなげていくことを目的に、各区に意向や現状を確認するため訪問したが、各区の実情として、人手不足・人材不足の現状から、区行政の維持だけで精一杯という区が多く、学習会まで進めたのは三沢区のみとなった。</p>		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	生活支援コーディネーター活動実績			単位	回
実績値	14	38	65		
*指標の説明	生活支援コーディネーターが区、地域活動団体、地区社会福祉協議会等に出向いた回数				
② 成果指標（指標名）	協議体の開催回数			単位	回
目標値		3	3	3	
実績値		3	3		
達成度	-	100.0%	100.0%		
*指標の説明	第1層、第2層の協議体の開催数				
*目標値の設定方法の説明					

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	7,982,382	7,991,561	7,966,599	8,285,000
経常経費	7,982,382	7,991,561	7,966,599	8,285,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	5,200,000	5,200,000	5,200,000	5,200,000
正規職員の人数(人)	0.65	0.65	0.65	0.65
③ 合計コスト(①+②)	13,182,382	13,191,561	13,166,599	13,485,000
前年度比		100.1%	99.8%	102.4%
財源	0	0	0	0
一般財源				
内訳	13,182,382	13,191,561	13,166,599	13,485,000
特定財源				
* 特定財源の説明	諏訪広域連合地域支援事業受託収入			
④ 活動一単位あたりコスト	941,599	347,146	202,563	
前年度比		36.9%	58.4%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。		0
④ この事業の利用者が増加した。 成果指標の実績値 前年度比	100.0%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。 成果指標の目標値 達成度	100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1層コーディネーターの活動が啓発活動とサロン活動の情報収集までは進んでいるが、十分な情報発信ができていない。 ・各区の考え方には温度差があり、全ての地区で同じやり方、同じスタートは難しい。人手不足・人材不足の現状から、区行政の維持だけで精一杯という現状。
改善方法	<p>(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>よい取り組みを知る、活用できるようになる、まねてやってみることができるようになることを目標に、以下の取り組みを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生活支援コーディネーターの巡回による「住民活動」の把握・広報→各区にある通いの場、生活支援・見守り等の情報をまとめた「住民活動マップ」の作成 ②インフォーマルサービスの把握・広報→関係者からの情報収集や商工会等との連携により、「地域資源ガイド」を作成 ③市町村の好事例紹介→新聞等の情報から、他市町村の好事例を収集し、各区へ情報提供しながら、各区の状況を把握する
改善開始時期	令和2年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---